

平成31年4月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

平成31年4月定例教育委員会会議録

- 1 開催日時、会場
平成31年4月19日（金） 15時00分～16時50分
情報館 1階 第1集会室
- 2 出席
蔵品泰治教育長、吉楽隆一委員、庭野三省委員、佐藤美佐子委員、浅田公子委員
- 3 説明のため出席した者
子育て教育部長（樋口幸宏）、文化スポーツ部長（富井敏）、教育総務課長（長谷川芳子）、学校教育課指導管理主事（佐藤研一郎）、生涯学習課長（鈴木規幸）、文化財課長（佐野誠市）、スポーツ振興課長（庭野日出貴）、情報館長（長谷川智）
- 4 会議の内容
 - (1) 会議録署名委員の指名
署名委員：浅田委員、庭野委員
 - (2) 報告事項
 - ① 共催・後援等報告
・資料のとおり

(特に質疑等なく了承された)
 - ② 報告第1号 十日町市理科教育センター所員の任命について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事
・資料に基づき説明

(特に質疑等なく了承された)
 - ③ 報告第2号 十日町市理科教育センター運営委員の委嘱について
蔵品教育長
・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事
・資料に基づき説明

庭野委員
・少年少女発明クラブとの関係はどうなるのか。

蔵品教育長
・少年少女発明クラブは、今年度から実施しないことになったが、今まで指導員をされていた方が、理科教育センター事業の一環という中で、ボランティア的な関わりで夏休み中に3回程度の実施を予定している。

庭野委員

- ・発明工夫の工作については、素晴らしいものがある。閉校した学校などに、良い作品を展示することはできないかと考えている。

蔵品教育長

- ・そのような提案があったことを担当者に伝える。

(以上の質疑のあと了承された)

④ 報告第3号 十日町市中学校部活動指導員の委嘱について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・この指導員は学校が見つかるのか。人数が多くないように思う。

蔵品教育長

- ・学校がスポーツ協会にも働きかけながらお願いしている。教育委員会事務局としては、人材が見つければ学校現場の多忙化解消の一助になるため、拡大したいと考えている。

(以上の質疑のあと了承された)

⑤ 報告第4号 十日町市学校運営協議会委員の任命について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく了承された)

⑥ 報告第5号 十日町市学校支援地域コーディネーターの委嘱について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐藤指導管理主事

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく了承された)

⑦ 報告第6号 十日町市社会教育委員及び十日町市公民館運営審議会委員の委嘱について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

鈴木生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく了承された)

⑧ 報告第7号 十日町情報館協議会（図書館協議会）委員の委嘱について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川情報館長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく了承された)

⑨ 報告第8号 十日町市子ども読書活動推進会議委員の委嘱・任命について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

長谷川情報館長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・子ども読書よりも問題は大人の読書ではないか。長野県のレタス産地の川上村では、冬に読書を推奨して図書館が充実しているという記事を見た。インターネットが盛んになるほど、大人の読書活動が大事であると感じる。今すぐにどうにかするものではないが、頭に置いてほしい。

蔵品教育長

- ・そういう話題について、推進会議の中で議論しても良いと思う。

庭野委員

- ・子どもでも小学生は読むが、中学・高校生が読まないと思う。

蔵品教育長

- ・浅田委員さんは読み聞かせをされている中で、どのように感じるか。

浅田委員

- ・読み聞かせをしてほしいという話をいただくが、手が足りなくて全てに対応できないが、行った学校では受け入れてくださり喜んでるように感じる。

佐藤委員

- ・本離れをしているように感じる。新作も良いが、昔からのイソップ物語や日本昔話などを知らない子どもが多いので、保育園などで教えたら良いと思う。幼いうちから画像の方に流れているように思う。

佐藤指導管理主事

- ・前任の燕市では、ボランティアが非常に充実しており、読み聞かせを2週間に1回程度学校にお越しいただく機会があった。朝学習の10分から15分ではある。学校によってボランティア組織がしっかりしているところは、図書室環境が充実していた。

蔵品教育長

- ・推進会議メンバーに指導主事や学校現場の教師も入っているので、色々な議論を深めていただければ良いと思う。

(以上の質疑のあと了承された)

⑩ 報告第9号 十日町市博物館協議会委員の任命について

蔵品教育長

- ・事務局の説明を求めた。

佐野文化財課長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑はなく了承された)

(3) 議決事項

① 議案第1号 第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針(案)について

蔵品教育長

- ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

長谷川教育総務課長

- ・資料に基づき説明

吉楽委員

- ・「4十日町市の学校教育」の部分で、今までの十日町市の学校教育の姿勢では、小中一貫教育の取り組みにおいて、小・中学校の教員が9年間を学びの括りとした学習指導と生徒指導を進めることが、教員の状況からして難しくなっている。それから、学級数による教員の配置基準と複合的に絡んでいる中で、学区を見直さなければならない状況になっているということに繋がると思う。4項目の中で説得してほしいのは、小中一貫教育の取組というものをより確かに進めるためには、見直しが必要だという方向へ話を繋げていけるのか。あるいは、そういうことではない学区の見直しというものが、切り離される形の話がでてくるのかということが、私としては色合い的にまだ納得を持たない。これはこれ、学区の見直しは学区の見直しという風に分かれた格好に見える。その点を確認したい、どう解釈したら良いのか。

佐藤委員

- ・切れているように受け取られているように思う。

蔵品教育長

- ・エリアは拡大するけれども、教員の確保という面では、地域出身の人材を集中させたいという願いがあるので、そういう意味では小中一貫教育の連携ということで進めることには反しない。

吉楽委員

- ・教員構成の状況を載せたということで、皆さんに知ってもらえることになる。地元出身の教員が20代30代に少ない中で、小中一貫教育という十日町市の取組をより確かなものにするには、教員数が少ないから学校を見直すことが必要になるという話し合いになるのか。その辺を無理に繋げてはいけないのか。

蔵品教育長

- ・学校の規模が縮小してしまう。子どもたちの活動の幅が狭まってしまうということが大きいと思う。その中で、十日町市は小学校と中学校の一貫したカリキュラムというものが繋がりをもちながら、特徴的には中一ギャップを解消するということがある。子どもたちを教える体制をより充実するという部分では、統合ということが大きな手段であると考えている。

佐藤委員

- ・それほどきめ細かく指導していただけるのだろうか。距離という大きな問題があると思う。呼ばれても直ぐに走って行ける距離ではないし、バスを使うなど、どのようにして移動するかによって、小学校から中学校へ行ったり、中学生や教員が小学校へ来るような交流授業が、週に何回もできるのだろうか。

蔵品教育長

- ・その部分では、教育委員会として移動手段の確保を担保しなくてはならないと思う。小学校の段階から交流授業を実施しなければならないと思う。例えば、川西中学校では、学区の3小学校と一緒に佐渡へ修学旅行に行っており、その事前学習として2回ほど集まっている。そういうことを通しながら中学校へ進学したときに、お互いが顔見知りとなるよう、友達関係を作りながら交流するという配慮をしている。松代は、1中学校1小学校であるが、複数の小学校の取組を見習いながら、大きな学区で、例えば南中学校を拠点にして、最終的には4つの小学校が関係をどう構築するかについて、しっかりと考えなければいけない。

庭野委員

- ・「4十日町市の学校教育」は、統廃合を意識したものではなく、一般的なものと考えて良いか。教員構成の状況については、自分が若い頃も同じような状況であり、地元の教員は少ない。コミュニティ・スクールの取組というのは、地域のことを知らない若い教員にも、地域コミュニティが大事だということを教える意味合いがあると思う。そうすると、今回の学区再編をどのように関連付けて、少し触れなくても良いのか。

蔵品教育長

- ・この方針案の組み立てからすると、4は現状の学校教育であって、後の項目で学区再編について記載されている。

庭野委員

- ・この程度の説明では、子どもの数が少なくなり学区をどうするのかということが、一般市民に通じないのではないのか。

蔵品教育長

- ・8項目に学区再編にあたっての配慮ということで、検討すべきことを示している。

庭野委員

- 昔と比べて地域の方が学校に関わっている。3年で教員が異動するようでは地域のことが解らないので、地域のことが解る教員を適材適所に置くことをどこでもやっているの、それと学校再編が結びつくことが良く解らない。それと、「十日町市を愛し、ふるさとに誇りを持って学べるよう・・・」というのは良いと思うが、最も古い火焰型土器と最も新しい大地の芸術祭というすごいことが、十日町市で行われていることをいかに若い親にも理解してもらおうか。そういう発信力を持っていないと、少子化や不景気などを愚痴る話にしかならない。

吉楽委員

- 学区の再編方針でも、「4十日町市の学校教育」で目指すものは変わらないという宣言とまではいかなくともこれを固めない、地域の個別の文化や伝統の議論になり、存続すべきと繋がる懸念がある。そうではなく、十日町市が子どもたちを教育する柱としてこの(1)から(4)があり、それを10年後の将来の人口減少を眺めたとき、この学区でないと続けてはいけないと伝えるようにした方が良いと思う。教員の構成状況もその一貫としてのデータであると思った。無理につなげる必要はないが、学区の編制によって変わるというのは如何なものか。

蔵品教育長

- 基本的には学習指導要領がベースであり、特徴的なものとして小中一貫教育やコミュニティ・スクールや地域資源を活用した取組を加えながら、ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子どもを育てていくという考え方と思う。

庭野委員

- 具体的に文章化できないが、(1)から(4)までについて、学校再編によりさらに良くなるという主張が必要ではないか。

富井文化スポーツ部長

- この構成からすると4項目ではこれまでの十日町市の学校教育について、現状についての記載ではないか。6項目でこれからの方針を示していると思う。

庭野委員

- 6項目の記載は、例えば目指す子どもの姿が、統廃合した方が良くなるということかなければ説得力がないように思う。小中一貫教育もこうすれば新しい小中一貫教育が見える、コミュニティ・スクールもこうなるなど、1行でも2行でも入っていれば良いが、このようなべた書きでは保護者や地域を納得させるには弱いのではないか。

蔵品教育長

- 8項目には項目ごとに記載されており、子どもたちの教育環境をどのようにします、特色ある学校づくりはこのように努めます、など示している。

庭野委員

- 十日町市は、小中一貫教育を掲げて取組んできた。そのことと今回の統廃合の関係を説明できないと、地域の方からは突かれるだろう。「4十日町市の学校教育」にある(1)から(4)までが学校再編でこうなるということを示さなければ説得力がないと思う。例えば、地域資源を活用した取組について、統廃合すると地域資源の活用の幅が

広がるから価値があるということ、コミュニティ・スクールの場合も、こうなるとコミュニティ・スクールがさらに良くなるということ、小中一貫教育も同様である。

吉楽委員

- この方針案から読み取れるのは、4項目は絶対に実施するもので、これを進める上で現状からすると、複式学級における教員数の減少で体験活動などに制限が出ているなどの問題提起を6項目で状況を説明していることは良いと思う。4項目と重複している部分もあるので、6項目を学区適正化の方針として見ると、学区を統合することによって子どもたちの教育にプラスになることを見込むという部分が、教育委員会の姿勢として出るかどうかというのを読み取り難かった。確かに項目立てにした方が良かったと思う。

庭野委員

- ベた書きは説明するときも難しいかも知れない。4項目のような書き方が良いかも知れない。

佐藤委員

- 8項目の配慮事項の中に特色ある学校づくりとあるが、説得するには弱いという感じがする。

庭野委員

- 南中と吉田中と松代中が一緒になるとこういう良い効果があるというものを持っていないと、文章には書けないかも知れないが、例として示すことができれば良いのだが。

吉楽委員

- 8項目は、この記載がベストではないかと思う。あまり具体的には書けないと思う。議論からすると、地域には色々な問題や思いが残っているので、一般論的なものにせざるを得ないのかと思う。

蔵品教育長

- 6項目については、今すぐに修正できないので、保留にさせてほしい。

庭野教育

- この方針に沿って統廃合を絶対に進めるという気持ちであれば、それに即した文章を作らなければならない。学校でも学校長が、こうしたいということを具体的に示して保護者を納得させる。教員が不足するという事だけでは夢がない。統廃合にはこうした良いことがあると、どこかに入れるべきではないか。

樋口子育て教育部長

- 今の議論は、学校の特色について、特色を持った学校をどのように統合するかということで、学校の特色は教育委員会が示すものではなく、学校運営協議会と地域コミュニティを含めて議論されるものであり、それを教育委員会がどのように支援していくかということになるため、積極的に方針に示すことは考えていない。

佐藤委員

- 方針であれば、これ以上は書けないのではないかと思う。具体案はここではなく、新

たに述べる形になるのではないか。

庭野委員

- 要するに、教員数について困っているということだけで保護者を説得することになる。学校の再編を進めるには、具体的なプランがあると思うので、こういうことが考えられるということを示さないと、保護者は数合わせと言うだけだと思う。ここに書かなくとも、教育委員会は考えを持っていないと批判を受けるだけだと思う。

浅田委員

- 6項目の方針には、十日町市の状況等を説明しており、17頁の最後にまとめとして、統合したらこうなると希望を持たせるような表現で、大きく出せると良いと思う。

庭野委員

- 当然反対の方はいるので、批判に対するこちら側の考えを持っていないと上手くいかないだろう。

樋口子育て教育部長

- 各地域に説明に入るときには、地域ごとに項目を加えた説明になる。小学校、中学校ではこういうことを大切にしており、それに対して市ではどういう支援をするという説明をすることになる。

庭野委員

- 少子高齢化が進むことは分かっているが、こうすれば教育力が落ちないというものがほしい。中条の地域づくりに関わって、雪祭りの雪像づくりについて段々上手くいくようになり賞を受けるようになったが、説得に何年もかかった。この程度の説明では納得させるのは難しいと思う。もっとアピールするものがほしい。

吉楽委員

- この方針案はまとまっていると思うが、説明に入ったときに言葉足らずの無いように、十日町市の学校教育の基本の柱の部分は、学区の話合いの土台にしないと、色々な思いがあって意見が出ると思うので、まとまらないのではないか。

庭野委員

- 新たな学校をつくるということが大変であり、具体的なものがないと保護者の信頼を得られず納得されない。

佐藤委員

- 8項目にはこれ以上のことは書けないと思うが、心配している部分であり、どの程度まで支援してもらえるのかということだと思う。

浅田委員

- 市の諸施策を説明し、しっかりと実施するよう願う。

蔵品教育長

- 実際地域には、方針を詳しく説明しなくてはならないと、改めて確認させていただいた。ひとつひとつ理解を得られるようにしたい。

佐藤委員

- ・統合により保護者も行き来しなければならない。子ども以上に不安があると思う。校歌や体操着など、細かいことを考えればどんな風になるのかと思う。

蔵品教育長

- ・PTA活動もあるので、そういったことも考えなければならない。

庭野委員

- ・統合してどちらの学校を使うのか。借地料のことも頭に入れておかなければならない。

(以上の質疑のあと議決された)

(4) その他

①最近の動きについて

- ・各部長、各課長等が資料に基づき説明

② 5月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

③ 事務分掌表について

④ 次回(5月)の教育委員会の開催日時

- ・5月定例会 30日(木) 13:30～ 川西庁舎 第1研修室

⑤ 第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針の検討会について

- ・予定日時 5月20日(月) 10時45分～12時(予定) 市役所東棟2階(大会議室)

⑥十日町市総合教育会議開催予定日時について

- ・予定日時 5月20日(月) 9時30分～10時30分(予定) 市役所東棟2階(大会議室)

以上で、16時50分に蔵品教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記